

デザインを上手にマネジメントするための勉強会をしています

デザインという行為の本質を理解して、経営の中核で活かしていく

デザイン担当主任研究員 古郷 彰治

世界が均質化していく中で、自社独自の新たな価値を生み出すためには、AIやIoT、ロボット化などテクノロジーだけでは抱えない『クリエイティブな能力』が重視される—

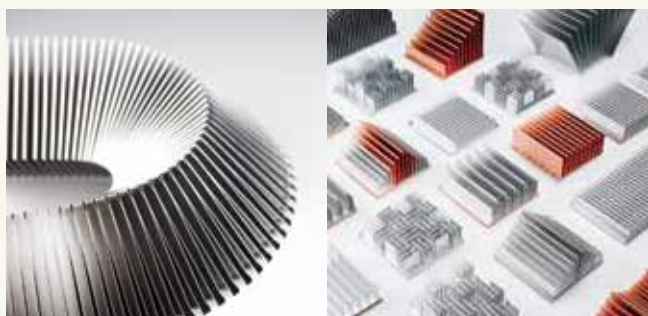
そのためのアプローチの一つとして当センターでは、デザインを上手にマネジメントする=経営者がデザインという行為の真の価値を理解し、経営の中核で活かしていくことを目的にデザインマネジメントの勉強会を開催しています。

形や色を整えるだけのデザインではなく

デザインを経営の中で活かしていくことをここでは「デザインマネジメント」と呼んでいます。例えば個々の製品やサービスを企画、開発する以前に、「自社の強みは何か」「自社をどのような会社にしていくのか」というようなことを改めて議論して定義し、それを社員に、そしてお客様に対して具現化し伝えていく。そういう段階においても「デザイン」の考え方が活用できますし、その流れの中で自社が社会に提供できる新たな価値の検討、そしてそれを踏まえた個々の製品やサービスの開発という場面でもデザインのマネジメントは有効に働きます。

グッドデザイン賞への応募を例題にした勉強会

ではデザインを活用=マネジメントしていくとして、具体的に何をどうすればいいのか？ 当センターのデザインマネジメント勉強会では「グッドデザイン賞に応募する」ことを例題にして、自社のこれまでのデザインの取り組みをチェックし、より効果的なデザインのマネジメントを考えていくという手法を取っています。グッドデザイン賞に選ばれるということは、よいデザインができていて、つまりデザインのマネジメントが上手くできているという証なのだ、という考え方です。



2016年度グッドデザイン賞
《ヒートシンクのオーダーメイドシステム「saisink Fシリーズ」》(株)最上インクス

※グッドデザイン賞について

1957年に通商産業省(現経済産業省)がデザインの重要性を啓蒙普及するために創設した「グッドデザイン商品選定制度(通称Gマーク制度)」をルーツとする事業で、現在では公益財団法人日本デザイン振興会が主催し、「よいデザイン」を選び顕彰することで、産業や生活文化を高める運動になっています。

お問い合わせ先

京都府中小企業技術センター 応用技術課 デザイン担当 TEL:075-315-8634 FAX:075-315-9497 E-mail: design@mtc.pref.kyoto.lg.jp

グッドデザイン賞が考える「よいデザイン」とは

もちろんパッと見て魅力的で「素敵だ」「欲しい」と思わせるものであることが大前提ですが、そこへ至ったプロセスや必要な要素として次のような点も重視されています。

- 企画、開発を始めたきっかけ、市場動向や社会背景
- 開発を行う際に立てたデザインコンセプト
- ユーザーや社会に新たに提供しようとした価値やそれによって得ようとした効果
- コンセプトを具体化するために創意工夫した点
- ユーザーや社会に伝えたいこと、デザイナーとして提案したかった事など
- 競合製品や類似サービスの状況と、それらとの違い

昨年度のデザインマネジメント勉強会

以上のような趣旨の元で、昨年度は次のような内容でデザインマネジメント勉強会を行いました。

- 講師：馬場 了 氏/クルー代表、日本デザイン振興会フェロー
安次富 隆 氏/ザートデザイン代表、グッドデザイン賞審査委員
加悦 秀樹/当センター主任研究員(当時)
- 共催：(公財)日本デザイン振興会
- 主なカリキュラム

【第1回】自社製品や自社のシーズを解析する

自社の製品やシーズについて、グッドデザイン賞の審査の視点に沿って解析しました。

【第2回】製品の概要やシーズを応募用紙に書き込む

実際に自社製品の概要をグッドデザイン賞の応募用紙に書き込み、「何が欠けているのか」「何が問題なのか」を把握しました。

【第3回】ターゲット・コンセプトを策定する

開発テーマをシミュレーションして商品コンセプトを作成。また競合商品と自社商品のコンセプトを解剖して、良いデザインの商品コンセプトを構想しました。

【第4回】応募用紙の完成とプレゼンテーション

学んだ手法で強化した商品をもう一度グッドデザイン賞の応募用紙に書き込み直し、その内容を個別にプレゼンテーション。講師からの助言と受講生同士での批評をしました。

また、当センターのデザイン担当研究員が随時個別指導を行いました。

デザインマネジメントについて詳しく知りたい、勉強してみたいとお考えの際は、応用技術課デザイン担当へお気軽にご相談ください。